

「肥料」ってどんなもの？「飼料」ってどんなもの？

肥料とは

農作物を健全に安定的に生産するために必要となるのが「肥料」です。

農作物が育つためには、自然状態から得られる光・水・空気といった要素と、肥料として与えられる「窒素・リン酸・カリウムなどの成分」が必要です。

肥料には、化学的方法により製造された肥料である「化学肥料」と原料が植物性または動物性の肥料である「有機質肥料」があります。「化学肥料」の例としては、硫酸アンモニア、硫酸加里、「有機質肥料」の例としては、なたね油かす、骨粉があります。

国内では肥料の品質の確保等に関する法律に基づく一定のルールに沿って、登録又は届出された肥料のみ流通することができます。



●各成分の主な働き

窒素(N)	植物(特に葉)の成長を促す	カルシウム(Ca)	細胞を強くする
リン酸(P)	開花結実を促す	苦土(Mg)	葉緑素を作るのに重要
カリウム(K)	根の発育を促す	硫黄(S)	タンパク質を作るのに重要

このほか、**ホウ素**、**マンガン**、**鉄**、**銅**、**亜鉛**、**モリブデン**なども、植物の細胞膜などの形成維持やタンパク質の生成などに必要です。

飼料とは

家畜（牛、豚、にわとりなど）の食べ物が「飼料」です。

とうもろこしや麦などの穀類を混合し、ビタミンやミネラルなどを補うための“飼料添加物”が加えられた配合飼料が主流です。

飼料は、適した栄養バランスになるよう、家畜の種類や発育ステージごとに規格があり、粗タンパク質などの成分量の目安が決められています。

うなぎ、こい、あゆなどの養魚用や、みつばち用の飼料もあります。

飼料は飼料の安全性の確保及び品質の改善に関する法律によって、その安全性や品質の確保が図られています。



●飼料の原料

